

中間評価（表紙）

大館市 歴史的風致維持向上計画(平成29年3月17日認定)  
中間評価(平成29年度～令和3年度)

■ 統括シート（様式1）	2
■ 方針別シート（様式2）	
I 大館城跡と周辺の町並みの景観保全・形成	3
II 歴史的建造物の保存・活用	4
III 歴史的風致の認識向上と情報発信	5
IV 歴史と伝統を反映した人々の活動の継承	6
■ 波及効果別シート（様式3）	
i 交流人口の拡大及び広域連携の促進	7
ii 民間まちづくり実行委員会による地域文化財の活用推進	8
■ 代表的な事業の質シート（様式4）	
A 秋田犬情報発信拠点整備事業	9
B 歴史的風致形成建造物保全整備事業	10
C 地域文化財総合活用推進事業	11
■ 歴史的風致別シート（様式5）	
1 大館城下の町割りに残る歴史的風致	12
2 扇田神明社をめぐる歴史的風致	13
3 田代岳の作占いに見る歴史的風致	14
4 天然記念物「秋田犬」を守り育てる歴史的風致	15
5 鳳凰山周辺に見る歴史的風致	16
6 浅利氏ゆかりの独鈷の歴史的風致	17
■ 庁内体制シート（様式6）	18
■ 住民評価・協議会意見シート（様式7）	19
■ 全体の課題・対応シート（様式8）	20

市町村名	大館市	評価対象年度	H29～R3年
<b>① 歴史的風致</b>			
	歴史的風致	対応する方針	
1	大館城下の町割りに残る歴史的風致	I, II, III, IV	
2	扇田神明社をめぐる歴史的風致	II, III, IV	
3	田代岳の作占いに見る歴史的風致	III, IV	
4	天然記念物「秋田犬」を守り育てる歴史的風致	I, II, III, IV	
5	鳳凰山周辺に見る歴史的風致	II, III, IV	
6	浅利氏ゆかりの独鈷の歴史的風致	II, III, IV	
<b>② 歴史的風致の維持向上に関する方針</b>			
	方針		
I	大館城跡と周辺の町並みの景観保全・形成		
II	歴史的建造物の保存・活用		
III	歴史的風致の認識向上と情報発信		
IV	歴史と伝統を反映した人々の活動の継承		
<b>③ 歴史まちづくりの波及効果</b>			
	効果		
i	交流人口の拡大及び広域連携の促進		
ii	民間まちづくり実行委員会による地域文化財の活用推進		
<b>④ 代表的な事業</b>			
	取り組み	事業の種別	
A	秋田犬情報発信拠点整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
B	歴史的風致形成建造物保全整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
C	地域文化財総合活用推進事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	

市町村名	大館市	評価対象年度	H29～R3年
方針	I 大館城跡と周辺の町並みの景観保全・形成	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】寺町や料亭街周辺では近代的な建造物が増加する中で歴史的な景観が失われつつあり、本丸跡の公園は土居の保全、修景整備に取り組んでいるが未だ良好な景観の形成に至っていない。また、大館神明社例祭で御神輿や曳山車が練り歩く道路環境は、電柱や電線類、屋外広告物などにより歴史的な景観が阻害されているのが現状である。

【方針】大館城跡周辺は、市民や来訪者の回遊性を高め、歴史的風致を感じて散歩できる環境の整備を図る。また、城下町の道路は、電柱や電線類の地中化等により良好な景観形成を図る。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	桂城公園(大館城本丸跡) 修景整備事業	修景基本計画策定に着手	あり	H23～
2	一般国道7号(豊町地区・長倉地区・桂城地区)電線共同溝整備事業	1,270m電線共同溝本体工事(管路)完了	あり	H27～
3	道路美装化整備事業	幸町桜並木通り美装化が完成	あり	H29～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

●桂城公園(大館城本丸跡)修景整備事業

大館城本丸跡の修景整備にあたり、令和3年度から修景基本計画策定に着手した。「歴史と未来が交差する水と緑の城址公園」を整備方針とし、関係団体と意見交換を重ねている。

歴史や文化を後世にしっかりと継承・発信できる場所となるよう修景整備を進めていく。

●一般国道7号(豊町・長倉・桂城地区)電線共同溝整備事業

一般国道7号は、城下町を通過するとともに、大館神明社例祭時に御神輿巡行や曳山車運行の順路であることから、良好な景観形成を確保するため無電柱化の整備を進めている。歴史的風致維持向上計画の認定後、重点区域内において、事業延長が拡大した。無電柱化の事業着手により市民の景観に対する認識が向上した。

●道路美装化整備事業

城下町の名残である鉤型道路などの町割りや、歴史的建造物を巡る際の回遊性向上を図るため、旧料亭街の幸町地区において、歴史的建造物や街路樹と調和を図りながら道路美装化を行い、令和元年度に整備が完了した。

また、他地区の道路美装化を進めるにあたり、地区住民と一緒に取り組むことにより、景観形成への想いが高まっている。



公園修景整備に向けた意見交換会(文化財保護協会)R3.12.14



桜並木通りの道路美装化(R2.8完成)

④ 自己評価

桂城公園修景基本計画策定にあたり、関係団体と意見交換を重ねたところ、修景を望む意見が多かったことから、実施設計の際にも幅広く意見を聞き、熟度を高めたい。

一般国道7号の無電柱化の推進により、長木川以北の大館駅から続く主要地方道等においても無電柱化の計画が推進し、整備を延伸している。なお、城下の名残がある道路においては、道路空間の確保及び景観向上のため、電柱電線類の統合及び修景を行った。

⑤ 今後の対応

大館城本丸跡は、修景基本計画に基づき、市民が愛着や誇りを持てる城址公園を目指す。その場所が、大館城址であった認識が低いことから、小・中学生のふるさとキャリア教育との連携や出前講座などの開催により理解を深める取り組みを継続する。

また、城跡周辺の景観保全にあたり、市独自の景観計画の策定が急務である。計画策定にあたり、引き続き市民と一緒に取り組んでいく。

市町村名	大館市	評価対象年度	H29～R3年
方針	Ⅱ 歴史的建造物の保存・活用	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】歴史的建造物は、歴史的な価値についての調査が十分に行われていないものが多く、文化財指定や保存・活用の方策が進んでいない。そのような中で、建造物は所有者や管理者により維持されてきたが、修繕や周辺環境の再整備の必要性や、後継者不足の問題を抱えている。

【方針】指定・登録有形文化財は、文化財保護法や条例に基づき適切に保存を図る。未指定の建造物については調査・評価を行い、新たな指定を検討する。また、歴史的風致形成建造物の指定要件に合致するものは所有者の理解、協力のもと、指定を検討し、保存・活用に努める。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	大館八幡神社(重要文化財)保存補修事業	覆屋の建替、拝殿・幣殿の改修が完了	あり	H30～R1
2	桜櫓館(登録有形文化財)保存補修事業	建造物の買取り、耐震改修が完了	あり	H29～R3
3	歴史的まちなみ調査事業	歴史的建造物調査報告書を3回作成	あり	H30～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

●大館八幡神社(重要文化財)補修事業

大館城を治める佐竹氏の守り神を祀る大館八幡神社の覆屋が老朽化していたため、解体後、建替工事を行った。あわせて、防火設備を整え、重要文化財を保護する環境を整えるとともに、開口部を大きく低くしたことにより、所有者不在の際も重要文化財を外部からの拝観が可能になった。



大館八幡神社覆屋建替(R1.2完成)

●桜櫓館(登録有形文化財)保存補修事業

前所有者が大事に維持管理してきた歴史的建造物を買取り、市有化した後に、耐震改修工事を行い、見学者や利用者の安全を確保した。改修後は、来客者が4,000人を超え、多様な活用が継続している。



桜櫓館貸館利用(木育広場)R3.6.27

●歴史的町なみ調査事業

ヘリテージマネージャー養成講座において、歴史文化遺産の保全活用の手法などの知識を26人が修得した。また、修得した会員で構成する任意団体により、歴史的建造物の調査を行うとともに、地域の歴史的建造物の補修提案を継続している。

④ 自己評価

歴史的建造物の保存補修により、見学者や利用者の安全を確保したことから、後世に大事に守り育てるとともに、更なる多様な活用を推進していく。

市域全域に点在する歴史的建造物の調査にあたり、ヘリテージマネージャーが会員で構成する任意団体へ委託し、実態調査を継続している。今後は、調査報告書を活用し、歴史的建造物の保全について、所有者と意見交換を重ねていく。

⑤ 今後の対応

耐震補強工事が完了した桜櫓館について、イベントを企画するとともに、賑わいの拠点となるよう更なる多様な活用を目指し、関係団体と意見交換を重ねていく。

あわせて、歴史的建造物の実態調査を参考にして、歴史的風致維持向上計画の重点区域外にある歴史的建造物を含めて、所有者の意向を聞きながら、「趣のある建造物」としてホームページ等を利用した紹介を目指す。

市町村名	大館市	評価対象年度	H29～R3年
方針	Ⅲ 歴史的風致の認識向上と情報発信	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】歴史的財産は、少子化や就労形態の多様化により、地域コミュニティの活動が縮小し、次世代へ継承する機会が減少している。市民共通の誇りである歴史的風致は、来訪者の増加や交流の拡大に有効な資源となり得るため、広く情報発信する必要がある。

【方針】説明板や標柱の設置、まち歩きマップの作成、まち歩き行事の開催により歴史的風致への関心を高める。また、デジタル媒体を活用し、歴史的風致を国内外へ情報発信を行い、来訪者の増加や交流の拡大を図る。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	秋田犬情報発信拠点整備事業	観光交流施設「秋田犬の里」H31完成	あり	H28～H31
2	大館神明社周辺環境整備事業	曳山車通路・駐車場・境内整備(継続)	あり	H29～
3	大館城下町名標柱整備事業	城下町名・歴史的建造物47基設置	あり	H28～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

●秋田犬情報発信拠点整備事業

完成した観光交流施設「秋田犬の里」は、天然記念物秋田犬の魅力、歴史や文化について情報発信している。

また、忠犬ハチ公の縁で、32年ぶりにハチ公のはく製が里帰りしたほか、渋谷区とは他分野においても広域連携が進んでいる。

●大館神明社周辺環境整備事業

大館神明社の例祭での各講の大きな山車のスムーズな運行と来訪者の安全のため、曳山車通路を新設、駐車場を兼ねた広場を整備するとともに、境内の修景整備を進めている。

境内修景整備により、地元中学生による境内美化活動が行われるなど、愛着や誇りが高まっている。

●大館城下町名標柱整備事業

大館城下の名残がある町名や歴史的建造物に、先に整備を進めていた「どこでも博物館の会（史跡標柱）」と連携を図り、計80基設置が完了した。QRコードから詳細説明文、多言語翻訳及び写真などをモバイル端末より閲覧が可能となった。



大館神明社曳山車通路(R3.1完成)



城下町名標柱(R2.9完成)  
(多言語翻訳QRコード付き)

④ 自己評価

秋田犬の里の完成に伴い、県内外から多くの来訪者が訪れるとともに、天然記念物秋田犬の魅力を発信している。秋田犬の里に移設した忠犬ハチ公銅像の前では、生誕祭や慰霊祭が毎年秋田犬保存会により継続開催している。

大館神明社の境内整備により、約半世紀ぶりに境内に曳山車が集結し、例祭余興奉納奉告祭を執り行う舞台が整った。

城下町を中心に標柱を設置し、QRコードからwebサイトに接続することが可能になり、城下町の歴史や文化についての情報を得る事が可能となった。

⑤ 今後の対応

秋田犬の里において、天然記念物秋田犬に興味を持ち、飼育の情報などを交換する拠点となる施設運営を目指し、更なる秋田犬の魅力を発信する。

地域連携DMO秋田犬ツーリズムや近隣市町村と連携し作成した街歩きデジタルマップと、どこでも博物館のホームページをリンクしている中で、歴史的建造物などを巡るまち歩きのモデルコースを設定し、来訪者の回遊性を高めていく。

市町村名	大館市	評価対象年度	H29～R3年
方針	IV 歴史と伝統を反映した人々の活動の継承	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】郷土芸能、伝統技術を伝える組織では、少子高齢化と人口減少により、技術の継承が難しくなっているため、指導者の確保や後継者の育成が課題である。

【方針】地域や学校との連携を図り、将来の担い手とである小中学生のみならず、保護者や住民の理解を深め後継者の確保や育成に取り組む。

伝統行事や歴史的資源の魅力を高める取り組みを行う団体などに必要な支援を行い、地域の活性化を促進する。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	無形民俗文化財・郷土芸能活動調査支援事業	文化遺産ホームページ作成、祭囃子シンポジウム開催、大館囃子講習会開催、映像記録	あり	H30～
2	地域づくり協働推進支援事業（愛称：地域応援プラン）	80団体の活動実績	あり	H22～
3	伝統的工芸品（大館曲げわっぱ）活動支援事業	木育活動「ウッズスタート」宣言 木材利用促進計画の策定	あり	H21～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

文化遺産ホームページの開設、パンフレットを作成する中で、訪日外国人対応として多言語翻訳した。平成30年度に秋田の祭囃子シンポジウム、令和元年度に大館祭り語りを開催し、他市の関係団体と交流を進めた。また、伝統芸能である大館囃子講習会の開催や教則映像を作成し、記録したDVDを配布して次世代への継承を図っている。

平成22年度から着手した地域住民によるまちづくりや地域活性化に取り組む活動団体は、令和3年度末で80団体となり、地域の景観向上や地域資源の魅力向上の取り組みを行った。更なる地域活性化を目指す団体を対象にステップアップ事業の活動も継続している。

令和元年9月に木育活動「ウッズスタート宣言」を行い、また令和3年に木材利用促進計画を策定した。その中で、伝統的工芸品大館曲げわっぱの技術は伝統工芸士が受け継いでいる。その技術を活かし作製した木のおもちゃを誕生祝い品として市内の新生児に贈呈している。



大館“祭語り”2019(R1.11.30)  
～祭典の歴史を学び、未来へ紡ぐ～



ウッズスタート宣言(R1.9.21)  
誕生祝い品を贈呈(木のおもちゃ)

④ 自己評価

人口減少や少子高齢化により、地域文化遺産の次世代への継承が危ぶまれている中で、令和元年度に民間4団体から構成する「大館市文化遺産まちづくり実行委員会」が設立し、地域文化遺産の継承や後継者の育成に取り組んでいる。また、地域づくり協働推進事業（地域応援プラン）において、地域活性化の取り組みも継続している。

伝統的工芸品大館曲げわっぱの伝統工芸士や関係団体の取り組みの継続により、地域資源の木に触れ合うなどの木育活動を推進している。

⑤ 今後の対応

平成30年度に設立した文化遺産まちづくり実行委員会は、現在4団体であるため、更なる取り組みの拡大にあたり、関係団体と意見交換を重ね、参画団体の増加を目指す。

木育推進にあたり、子どもの頃から木材に親しめる木育空間の整備や木育インストラクターの養成など引き続き行う。また、秋田スギへのこだわりを感じてもらおうとともに、地域の文化に触れながらインバウンド目線で体験してもらおうモデルツアーの取り組みを継続する。

市町村名	大館市	評価対象年度	H29～R3年
効果	i 交流人口の拡大及び広域連携の促進		

① 効果の概要

歴史的風致維持向上計画に基づく取り組みは、歴史や文化を活かした活力あるまちづくりにつながるとともに、歴史的風致の価値が高まる。また、取り組みを通じて、交流人口の拡大や広域連携の促進が図られた。

② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	第2次大館市総合計画	あり	H28～R5
2	大館市観光基本計画	あり	H28～R4

③ 効果発現の経緯と成果

奥州藤原氏四代泰衡公を祀る二井田地区の錦神社で、毎年泰衡公の命日に地元町内会が弔いを継続している。また、泰衡夫人を祀る比内町五輪岱の西木戸神社でも、歴史を受け継いでいる。藤原三代を祀る奥州市の中尊寺と地元町内会の交流が続く中で、株分けしていただいた中尊寺ハスを関係者が大事に守り育て、毎年花を咲かせている。



中尊寺ハス前での記念写真  
(錦神社／大館市二井田)H30.9.2

そのような交流を通じて、令和元年度に「東北の平和を希求する想いをまちづくりへつなぐ」をテーマに、歴史まちづくりシンポジウムを開催し、市民のほか平泉町、横手市、美郷町からも多くの方が参加し、理解を深めた。



歴史まちづくりシンポジウム  
(R1.10.14)

また、忠犬ハチ公の物語りでつながる渋谷区とは、交流の継続により、ネットワークが形成され、ハチ公のふるさと大館の魅力の発信につながる企画や事業が民間も含め動き出している。さらに、渋谷駅前では忠犬ハチ公銅像と同じく待ち合わせスポットとなっていたモニュメント「青ガエル」を譲り受け、秋田犬の里に移設が完了し、大館の玄関口の新たな顔となり、多くの方が見学に訪れている。



青ガエル移設記念セレモニー  
(秋田犬の里)R2.11.1

④ 自己評価

中尊寺と地元町内会との交流がきっかけで、平泉町の中尊寺や毛越寺のほか、関係する市町との広域連携の拡大が図られた。

また、歴史まちづくりシンポジウムや実践発表会を計4回開催し、歴史・伝統・文化を知っていただく機会を提供した。その中で、広域連携を進める他市とのパネルディスカッションにおいて、今後の歴史や文化を活かしたまちづくりに、市民と一緒に理解を深めることができた。

⑤ 今後の対応

歴史まちづくりを通じて、広域連携を進めるにあたり、シンポジウムの参加や開催のみならず、次世代を担う子どもたちが他市の歴史や伝統・文化を学ぶ交流も必要である。

その中で、外から見た目線で生まれ育ったふるさとを感じるにより、新たに誇りと自信が持つことにつながるため、ふるさとキャリア教育と連携を図り、取り組みを推進していく。

市町村名	大館市	評価対象年度	H29～R3年
効果	ii 民間まちづくり実行委員会による地域文化財の活用推進		

① 効果の概要

近年の人口減少や少子高齢化により、歴史的風致の大館神明社例祭奉納行事をはじめとする地域文化遺産の次世代への継承が危ぶまれている。この課題解決のため、民間4団体で構成するまちづくり実行委員会が設立した。実行委員会の取り組みの継続により、地域の文化遺産の継承、後継者育成及び文化遺産を活用した地域活性化が図られた。

② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	第2次大館市総合計画	あり	H28～R5
2	大館市都市再興基本計画	あり	H31～R20

③ 効果発現の経緯と成果

人口減少や少子高齢化により、地域文化遺産の次世代への継承が危ぶまれていく課題がある中で、大館市郷土芸能保存協会、大館・北秋田建築士会、大館神明社例祭余興奉納実行委員会、大館ばやし保存会の4団体で構成する民間主導のまちづくり実行委員会が平成30年2月に発足した。

大館・北秋田建築士会は、歴史的建造物の保存・活用の知識を得るヘリテージマネージャーの養成講座を行い、26人が知識を修得した。会員はスキルアップ講座として、市内全域の歴史的建造物の実態調査や、神社仏閣の補修提案などの取り組みを継続している。

大館ばやし保存会は、大館ばやしの正調を次世代に受け継ぐため、例祭に向けて講習会を継続したほか、映像・記録編集を行い、DVDを作成し、市内の小中学校に配布した。

また、地域文化遺産のホームページを開設、リーフレットを作成したほか、多言語翻訳を行い、国内外に情報発信している。



歴史的建造物実態調査  
(比内地域)R1活動



大館囃子教則映像DVD作成  
(小中学校に配布)H30完成



文化遺産パンフレット作成(中国語版)R1完成

④ 自己評価

歴史的建造物の保全や町なみの景観形成を目指すにあたり、ハード事業のみだと活動の継続が難しい中、郷土芸能や建築に関連する民間4団体が、まちづくり実行委員会を発足し、取り組みを継続している。




ソフト事業について、市民と一緒に取り組みを継続したことにより、地域文化財の活用推進が図られた。

⑤ 今後の対応

歴史的建造物の滅失が増加する中で、所有者の意向を反映しながら、映像や図面に記録保存することも必要と考える。また、後継者不足により困難になる維持管理について、ご相談を受け提案できる体制づくりが必要である。

大館神明社例祭余興奉納行事の各講の曳手が年々減少する中で、次世代を担う子どもたちが積極的に参加できる環境づくりを関係者と意見交換を重ねながら、郷土芸能や伝統文化を体験できる機会を提供し、更なる賑わいの創出を目指す。



市町村名	大館市	評価対象年度	H29～R3年
取り組み	A秋田犬情報発信拠点整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設
<p><b>① 取り組み概要</b></p> <p>市の玄関口である大館駅前に、天然記念物秋田犬の歴史や文化を発信し、秋田犬の認識向上を図るため、また地域資源を巡るまち歩きの周遊拠点となる観光交流施設「秋田犬の里」を、忠犬ハチ公の縁により大正時代の渋谷駅をモチーフにして整備した。</p> <p>施設内部には、秋田犬展示室やミュージアム、施設外部には、忠犬ハチ公銅像を施設前に移設、ふれあい広場には主要産業であった鉱山・鉱山鉄道の歴史を紹介した鉄道パークを併設するとともに、広域連携を進める渋谷区から譲り受けた「青ガエル」を設置した。</p> <p>また、ハチ公の生誕祭・慰霊祭、32年ぶりに里帰りした「ハチ公のはく製」の特別展示や、秋田犬保存会秋田県北支部展などに、市内外から多くの愛犬者や来訪者が訪れ、賑わいの拠点となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成31年3月 工事完了</li> <li>・平成31年4月 完成式典</li> <li>・平成31年5月 グランドオープン</li> <li>・令和元年度 入場者315,137人</li> <li>・令和2年度 入場者 71,522人（ｺ叶禍で休館あり）</li> </ul>		 <p>大正時代の渋谷駅をモチーフにした「秋田犬の里」H31.4完成</p>  <p>秋田犬展示室(R1.5)</p>  <p>里帰りしたハチ公のはく製(R1.5.8)</p>	
<p><b>② 自己評価</b></p> <p>天然記念物秋田犬の歴史や文化に身近に触れ合うことができる観光交流施設が完成した。施設内に観光協会事務局があり、来訪者にとって周遊の拠点となっている。</p> <p>引き続き、市民や来訪者が秋田犬に興味を持ち、飼育などの情報を交換する拠点となる施設運営を目指すとともに、更なる秋田犬の魅力を発信する必要がある。</p>			
<b>外部有識者名</b>	大館商工会議所 専務理事 木村 勝広		
<b>外部評価実施日</b>	令和4年3月16日		
<p><b>③ 有識者コメント</b></p> <p>大館駅前に、大館ブランドの一つである「秋田犬」を前面に出した観光交流施設「秋田犬の里」を整備したことで、県内外から多くの旅行者や愛犬家が大館市を訪れるきっかけとなっており、タイムリーで効果的な事業であった。またハチ公生存中の渋谷駅前を再現するなど歴史・文化・景観面に配慮した施設となっている。</p> <p>今後は、これまでの取り組みのほか、レールバイクや街歩きイベントなど、様々な観光事業主体と連携した取り組みを行うなど、多くのリピーターや市民の利活用に取り組んでいただきたい。また、リピーターを増やすために、キーワード上位の「#のんびり過ごす、#子育て、#アウトドア、#レンタルスペース」などの利用者をターゲットにした施設の環境整備を行い、旅行者以外にも多くの市民や学生、生徒、児童に愛され、集えて癒されるように、磨き上げをお願いしたい。</p>			
<p><b>④ 今後の対応</b></p> <p>観光交流施設「秋田犬の里」は、大館の玄関口である大館駅前の顔となり、多くの来訪者が訪れるとともに、天然記念物「秋田犬」の魅力を発信している。</p> <p>今後は、関係団体と情報共有を図りながら、更なる賑わいの創出や継続を目指し、市民や来訪者が気軽に立ち寄り、憩い集える場所となる環境を整えていく。</p>			

市町村名	大館市	評価対象年度	H29～R3年
取り組み	B歴史的風致形成建造物保全整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設
<p><b>① 取り組み概要</b></p> <p>大館城下町は、戦後の度重なる大火により歴史的建造物を失っているが、奇跡的に大火を免れた歴史的に価値の高い建造物が残っている。</p> <p>平成29年12月に大館八幡神社（重要文化財を除く建造物群）、桜櫓館（登録有形文化財）、大館城下の町割りに残る歴史的風致を形成する大館神明社を歴史的風致形成建造物に指定し、文化庁文化財調査官と協議しながら建造物の文化的価値が失われないように保全に取り組んだ。</p> <p>大館八幡神社は、重要文化財二社を保護する覆屋の主部材が老朽化していることから、本殿保全の対策が必要であった。覆屋建替改修にあたり参拝者が本殿を拝観しやすい構造に考慮しながら、本殿を安全に管理できるように整備を行い、あわせて本殿への延焼を防ぐ防火対策を行った。</p> <p>桜櫓館は、市庁舎や大館城本丸跡に隣接し、今後多様な利活用が見込めることから、建物を買取り後、市有化した。また、耐震診断を行ったところ耐震性能が低く倒壊の恐れがあることから、見学者や利用者の安全を確保するため、文化財の価値を損なわない形で耐震改修工事を行った。</p> <p>大館神明社は、例祭の舞台となる本殿盛土基礎擁壁が沈下しており本殿に影響を及ぼすおそれがあったことから、盛土基礎擁壁の再構築及び本殿玉垣の改修を行った。</p>		 <p>覆屋内部(大館八幡神社)R2.3完成</p>  <p>構造用合板で補強(桜櫓館)R2.10</p>  <p>本殿玉垣改修(大館神明社)R1.12完成</p>	
<p><b>② 自己評価</b></p> <p>歴史的風致形成建造物整備にあたり、大館市歴史的風致形成建造物保存整備事業補助金交付要綱を制定し、関係者と協議を重ねて事業に着手した。以前に、このような木造建造物の保全について、地元の設計業者や工事業者が携わった実例が無く、苦慮した点多かったが、改修等が完了した。民間所有者のご協力のうえ、一般公開を継続している。</p>			
外部有識者名	大館歴史的建造物研究会 会長 鳥潟 宏一		
外部評価実施日	令和4年3月18日		
<p><b>③ 有識者コメント</b></p> <p>大館市は度重なる大火により歴史的建造物が焼失して、市内にはほとんど残されていないというのが市民の共通認識であるが、大館八幡神社と大館神明社、桜櫓館の歴史的建造物の改修工事は市民にとって価値あるものである。旧市内の東の大館八幡神社と西の大館神明社は藩政時代の歴史的軸を残しており、その直線上の間にある桜櫓館とあわせて、これからのまちづくりに活かされていくものと期待される。</p> <p>また、大館八幡神社の覆屋建替改修は市唯一の重要文化財である正八幡宮と若宮八幡宮の保全とともに、外部からその存在を窺い知れるように配慮したことや、本殿を拝観しやすいようにしたことは、市民がその存在を知る機会を作り出した。大館神明社、桜櫓館とともに広くアピールしていくことにより、市民のシビックプライドにつながることを期待したい。</p>			
<p><b>④ 今後の対応</b></p> <p>歴史的建造物の改修工事が完了したことから、整備手法や整備内容について、ホームページ等で広く情報を公開する。</p> <p>今後は、整備した歴史的建造物の一般公開を継続するとともに、関係者と意見交換を重ね、多様な利活用の推進を目指す。</p>			

市町村名	大館市	評価対象年度	H29～R3年
取り組み	C地域文化財総合活用推進事業	種別	歴史的風致維持向上施設
<p><b>① 取り組み概要</b></p> <p>市内には、詳細な調査と研究を実施していない歴史的建造物や郷土芸能・伝統行事が数多く残っており、関係団体と活動等を継続するための課題を共有する必要があった。その中で平成30年2月に民間4団体で構成する「大館市文化遺産活用まちづくり実行委員会」が設立し、各分野において情報発信、人材育成、普及啓発、記録作成、後継者養成などに取り組んでいる。この取り組みは、関係団体のみならず市民と一体となる活動の原動力や、次世代に受け継ぐための受け皿となり、ハード整備と一体で推進することで重層的なまちづくりが期待できる。</p> <p>○構成団体</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大館郷土芸能保存会</li> <li>・大館・北秋田建築士会</li> <li>・大館神明社例祭余興奉納実行委員会</li> <li>・大館ばやし保存会</li> </ul> <p>○活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①情報発信 ・文化遺産ホームページ・パンフレット作成事業</li> <li>②人材育成 ・ Heritage マネージャー育成事業</li> <li>③普及啓発 ・秋田の祭囃子交流事業</li> <li>④記録作成 ・大館囃子教則映像記録事業</li> <li>・大館神明社例祭映像記録事業</li> <li>⑤後継者養成 ・大館囃子講習会事業</li> </ul>		  <p>Heritage マネージャステップアップ講座                  上段: 歴史的建造物シンポジウム(R2.2.23)                  中段: 桜橋館耐震改修研修会(R2.11.11)</p>  <p>大館囃子講習会の様子(R1.8)</p>	
<p><b>② 自己評価</b></p> <p>実行委員会の設立により、幅広いソフト事業の取り組みが展開している。この取り組みを通じて、本市以外に同様の取り組みを行っている他市町村と情報共有や連携を図ることが可能なことから、引き続き活動を継続するために必要な支援を行う必要がある。また、次世代を担う子どもたちが興味を抱き、地域での活動へつながる講座の開催も検討する。</p>			
<b>外部有識者名</b>	大館市観光協会 会長 山城 久和		
<b>外部評価実施日</b>	令和4年3月18日		
<p><b>③ 有識者コメント</b></p> <p>自分たちが暮らすまちの歴史や伝統文化を語れる人材を、どの位持てるかが魅力的なまちづくりの重要なポイントであり、人材育成が一番に取り組むべき重要な事業と捉えられる。歴史的な物、伝統文化に触れる絶好の機会や、郷土芸能や祭典に関わる様々な行事の取り組みへの参加であり、また、市内に点在する歴史的建造物の由来を知ることが、郷土が育んできた歴史への理解と、それを基礎にした地域の未来を考える力となる。</p> <p>この事業が生み出す大きな魅力であり成果となっているのが、各地に伝わる獅子踊りや大館囃子の継承、曳山車の運行に関わることなど、世代を超えた交流を推進する力となっていることであり、次世代を担う子どもたちが地域の子どもたちとして育成され、郷土に誇りと愛着を持ち、地域の宝となって歴史と文化の伝承者として成長していることと考える。関係者だけでなく地域住民を対象とした更なる普及活動を強化することが望ましい。</p>			
<p><b>④ 今後の対応</b></p> <p>引き続き、まちづくり実行委員会と連携を図り、大事に受け継いできた伝統行事や郷土芸能を守り育てる取り組みを継続する。その取り組みの中で、関係者と一緒に、認識度向上を目指すとともに、次世代を担う子どもたちが生まれ育った地域に、興味を抱き、関心を持ち、それが活動につながる取り組みの推進を目指す。</p>			

市町村名	大館市	評価対象年度	H29～R3年
歴史的風致	1 大館城下の町割りに残る歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	I 大館城跡と周辺の町なみの景観保全・形成 II 歴史的建造物の保存・活用 III 歴史的風致維持向上と情報発信 IV 歴史と伝統を反映した人々の活動の継承		

① 歴史的風致の概要

江戸時代の初めに大館佐竹氏により作られた城下町大館には、町割り当時の地名が今に残る。大館神明社の秋の例祭ではその町内を御神輿が巡り、曳山車が大館囃子を奏でながら練り歩く。また、城下に開かれた「市」が起源と伝えられる大館アメッコ市が冬の風物詩として現代に受け継がれている。

② 維持向上の経緯と成果

江戸時代、大館地方を統治した大館佐竹氏の守り神を祀った大館八幡神社の重要文化財二社を保護する覆屋が老朽化したことから、解体後、建替工事を行い、参拝者が外部から本殿を拝観しやすい構造とした。また、防火対策の整備により、貴重な資源を後世に継承することが可能となった。あわせて、拝殿及び幣殿の改修と消防設備の更新を行った。

大館神明社例祭は、大事に受け継がれてきた形式で、現在も関係者のご尽力により執り行われている。

各講の曳山車が境内に集結し、奉納参拝を可能とするため、曳山車通路や待機場所となる駐車場の整備により、約半世紀ぶりに境内での余興奉納奉告祭が開催できる環境が整った。あわせて、境内修景や手水舎の改修を行い、景観の向上を図っている。

ソフト事業は、大館囃子映像記録を行い、DVDを作成し小中学校に配布した。また、講習会も継続開催し、多くの関係者が参加した。こうした取り組みにより、担い手を育成できる環境が整うとともに、後世へ正確に継承することが可能となった。

また、大館城下町から残る町名や町割りが残っていることから、市民や来訪者のまち歩き回遊性向上を目指し、道路の美装化や城下町名標柱の設置を着実に進めている。



重要文化財大館八幡神社  
（消防・避難訓練）R3.1.25



奉納演奏と稚児行列(大館神明社境内)  
（境内修景整備後）R3.9.10



大館城下を巡るまち歩き  
デジタルマップツアー R3.11.3

③ 自己評価

歴史的建造物の保全や、歴史と伝統を反映した人々の活動の継承に向けた取り組みを進める中で、関係団体や地元住民の積極的な参画があった。また、城下を巡る歴まち散歩には、多くの市民が参加し理解を深めた。あわせて、歴まち出前講座の要請や関係団体との意見交換の機会も増えている。

こうした取り組みにより、歴史や文化を活かしたまちづくりや、歴史的風致の認識が向上した。

④ 今後の対応

大館城本丸跡の修景整備基本計画を策定中であるが、引き続き関係団体と連携を図りながら、市民が愛着や誇りを持ち、賑わいの拠点となる整備を目指す。

大館城下の町割りにおいて、歴史的建造物の保全や道路美装化、電線共同溝整備の事業を推進する中で、より良好な景観形成を図るため、景観計画の策定を進める必要がある。

市町村名	大館市	評価対象年度	H29～R3年
歴史的風致	2扇田神明社をめぐる歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	II 歴史的建造物の保存・活用 III 歴史的風致維持向上と情報発信 IV 歴史と伝統を反映した人々の活動の継承		

① 歴史的風致の概要

扇田神明社には、住民が誇りとする佐竹宗家ゆかりの御神輿があり、毎年7月の例祭では扇田地区を古式に則って渡御される。  
 また、火伏祭りのジャジャンコは、各家々を祓い清めて回る、春一番の風物詩である。  
 扇田の人々は古くからの例祭や行事を、伝統としきたりを守って現代に受け継いでいる。

② 維持向上の経緯と成果

扇田神明社の例祭は、住民が誇りとする佐竹氏ゆかりの御神輿が古式に則り白丁によって扇田地区の全域に渡御され、数百年前から変わらぬ様式で繰り広げられている。

また、火伏祭りのジャジャンコは、錫杖の音とともに、神職がまわって家々を祓い清めている。

扇田地区の歴史を巡る歴まち散歩では、佐竹宗家の御神輿に触れ、また戊辰戦争の激戦地を巡る歴まち散歩では、銃弾の跡などを解説する宮司の説明に、参加した市民は興味深く聞き入り、扇田地域の貴重な歴史や文化に理解が深まった。

扇田神明社は、ご寄附を募り、社殿の補修を行い、大事に守り続けてきた歴史的建造物の保全を図った。

なお、扇田地区には、歴史的建造物や町なみが現在も残っていることから、ヘリテージマネージャーに調査を依頼し、この地区における歴史的建造物のほか、歴史や背景について調査報告書の提出を受けた。

今後はこれまで大館城下町の範囲で進めてきたどこでも博物館標柱の設置について、扇田地区で進める予定である。



扇田神明社例祭  
 (御神輿巡行)H29.7.15



扇田地区を巡る歴まち散歩  
 (宮司による御神輿の説明)H29.7.15



本殿遷座祭(H30.6.10)  
 (社殿改修工事を終えて大神様を遷す)  
 北鹿新聞社提供

③ 自己評価

重点区域外の歴史的建造物の保全に関する支援制度がない中、社殿の大規模改修により、例祭の舞台となる建造物の保全が図られた。

扇田神明社を中心とする歴史や文化について、広く市民に理解してもらうため、例祭に参加していただく歴まち散歩を企画したところ、参加者に好評であった。

④ 今後の対応

扇田地区には、扇田神明社のほか、地元の人々が大事に守り育ててきた歴史的建造物や伝統行事などたくさんの歴史的資産が残っていることから、たくさんの市民に、より知っていただく企画を開催する必要がある。

こうした企画の立案にあたり、地元関係者との交流をより一層深めていき、更なる歴史的風致の認識の向上を目指す。

市町村名	大館市	評価対象年度	H29～R3年
歴史的風致	3 田代岳の作占いに見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅲ 歴史的風致維持向上と情報発信 Ⅳ 歴史と伝統を反映した人々の活動の継承に関する方針		

① 歴史的風致の概要

田代岳は、山そのものが御神体で、毎年7月2日頃の半夏生に、9合目湿原の池塘で行う作占いの神事が続けられている。  
山頂の田代山神社の例祭に訪れる参拝者は、豊作と家内安全を願い、笹やツゲを持ち帰り、田の水口に立てて虫除けとする習わしが今も続いている。

② 維持向上の経緯と成果

田代山は古くから雨乞いの山として市内全域からの信仰を集めている。現在でも、毎年半夏生の時期に、作物の豊穰を占う作占いが9合目の池塘で、宮司と氏子によって継続している。  
翌日には、本祭りの神事が執り行われるとともに、作占いの結果を知るために市内外から多くの方が参拝登山に訪れる。  
また、大館城下町で毎年2月に開催されるアメッコ市では田代山の神と伝わる「白髭直日大神」が、山から下りて来る催しが続いている。  
こうした伝統行事が継続する中、「田代山を愛する会」が毎年例祭に先駆けて6月に清掃登山を行っているほか、登山道の木道の補修も随時行っている。  
その田代山の麓に位置する山田地区では、地域活動が盛んなことから、歴まち散歩を企画した。村を守る道祖神の保全や奇祭ジンジョ祭り、400年にわたって継承され続けてきた獅子踊りの継承などの地域コミュニティの取り組みについて参加者に知っていただいた。



9合目で行われる作占い  
(綴子神社宮司・氏子会)H29.7.3



登山道の木道補修  
(田代山を愛する会)R3.7.26

③ 自己評価

田代山周辺は自然が豊かであり、登山や写真愛好家に人気の場所である。その景観を守るため、田代山を愛する会が長年活動を継続している。市でもコラボ企画として半夏生に参拝登山に同行したり、フォトギャラリーを開催するなど、田代山を広く情報発信している。こうした取り組みを市民協働で行っていく必要がある。



山田地区道祖神を巡る歴まち散歩  
(案内人による説明)R1.10.4

④ 今後の対応

田代山神社例祭や良好な景観は、関係者のご尽力により現在まで大事に受け継がれ守られている。関係者と情報を共有し、更なる歴史的風致の認識の向上を目指す。  
田代山周辺は自然が豊富であり、麓の五色湖エリアは四季折々の表情を見る事ができるが、広く周知されていないことから、国内外に情報発信する。また、このエリアの利活用を検討し、拠点として賑わいの創出につなげたい。

市町村名	大館市	評価対象年度	H29～R3年
歴史的風致	4天然記念物「秋田犬」を守り育てる歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	I 大館城跡と周辺の町なみの景観保全・形成 III 歴史的風致維持向上と情報発信 IV 歴史と伝統を反映した人々の活動の継承		

① 歴史的風致の概要

秋田犬は大館の先人たちが結成した秋田犬保存会の尽力により、日本犬で初めて天然記念物に指定された。秋田犬保存会は展覧会を開催するなど現在まで、その血脈を守り続けている。  
 大館駅前には、大館生まれの秋田犬である忠犬ハチ公の銅像があり、毎年生誕祭や慰霊祭が行われている。  
 また、市内各地に秋田犬の像やデザインがあり、秋田犬を愛する市民の深い愛情が受け継がれている。

② 維持向上の経緯と成果

秋田犬保存会により、昭和30年代から大館城本丸跡の桂城公園を舞台に開催してきた秋田犬本部展覧会は、令和3年5月の開催で第143回を迎えた。  
 第86回秋田犬保存会県北支部展は、観光交流施設「秋田犬の里」のふれあい広場において、初開催した。  
 あわせて、秋田犬の里に移設した忠犬ハチ公銅像の前では、忠犬ハチ公の生誕祭や慰霊祭が、関係者により継続している。  
 なお、課題となっている秋田犬保存会員数や犬籍頭数については、会員数は微増したが、犬籍登録数は減少している。  
 地域おこし協力隊による市内を巡る秋田犬の散歩は、時間帯とコースを公表し行うことで、市民や愛犬者から好評を受けている。市内外でのイベントや広域連携の催しに出演する機会も増えている。  
 渋谷区と忠犬ハチ公の物語りで紡ぐ交流により、東急プラザ渋谷に「GMOデジタル・ハチ公」がオープンし、ハチ公の生い立ちなどが動画で視聴でき、ハチ公とふるさと大館の関係を紹介している。



忠犬ハチ公慰霊祭  
 (秋田犬の里) R2.10.10



道の駅平泉1周年記念イベント  
 (秋田犬ふれあいコーナー) H30.4.28



GMOデジタル・ハチ公  
 (東急プラザ渋谷) R1.12オープン

③ 自己評価

観光交流施設「秋田犬の里」の完成により、大館の玄関口である大館駅前の賑わいの創出が図られた。また、忠犬ハチ公の物語りを基軸とした取り組みは、渋谷区や全国各地との交流事業の核として役割を果たしている。  
 引き続き、市が目指す交流人口の拡大に向け、秋田犬保存会や関係団体と連携を図っていく。

④ 今後の対応

秋田犬本部展覧会の舞台となる大館城本丸跡の桂城公園は、基本計画に基づき秋田犬本部展覧会の開催に相応しい城址公園を目指す。  
 また、忠犬ハチ公の縁による物語りを次世代に受け継げるよう、引き続き国内外への情報発信を推進していく。

市町村名	大館市	評価対象年度	H29～R3年
歴史的風致	5 鳳凰山周辺に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	II 歴史的建造物の保存・活用 III 歴史的風致維持向上と情報発信 IV 歴史と伝統を反映した人々の活動の継承		

① 歴史的風致の概要

鳳凰山の麓に造られた岩神貯水池は、長い間農業や市民の生活を支えてきた。その上流部には古くから雨乞いの場所として信仰を集めてきた沼窪神社があり例祭が続けられている。  
 貯水池の周辺にはたくさんの桜が植樹され、四季折々の姿を見せる鳳凰山大文字とともに、ふるさとの風景として多くの市民に愛されている。

② 維持向上の経緯と成果

鳳凰山の麓にある岩神貯水池周辺の岩神ふれあいの森には、市民により、約1万本の桜の植樹が行われた。しかし、根張りの関係で、年数を重ねるごとに、生育に影響があり本数が激減してきている。

そこで、岩神ふれあいの森を含む市内の桜の名勝を目指し、平成29年度に樹木医の協力をいただきながら、桜再生会議を立ち上げ、桜の保全に向け、庁内において横断的に取り組んでいる。

沼窪神社の例祭は、東二ツ屋と宮袋の両町内の関係者により、現在も鳥居や参道、沼、神社にしめ縄を飾り、神事が執り行われている。

また、昭和43年から続いている日本一の大きさと美しさを誇る鳳凰山の火床の送り火（大文字焼き）は、令和3年8月で第51回を迎えた。

市は、大館商工会議所や大館市観光協会と協力し、鳳凰山で行われる大文字の送り火を体験する歴まち散歩を企画し、幅広い世代に参加いただいている。



桜の剪定作業  
 (岩神ふれあいの森) R2.12



大文字焼き体験歴まち散歩  
 (火床へ点火作業) R3.8.8

③ 自己評価

鳳凰山の火床の送り火の火床の設置は、関係者が長い月日をかけて行う重作業であり、毎年、市民が大文字送り火を楽しみに待っている想いにより、現在まで継続している。

また、大文字周辺の刈払いにより、市街地から四季折々の表情を見せるとともに、良好な景観が確保され、市民の拠り所となっている。



沼窪神社例祭(H30.5.10)

④ 今後の対応

大文字の送り火に参加する人数が年々減少している中で、歴まち散歩において体験を企画したところ、参加人数が徐々に増えてきている。引き続き、関係者と連携を図り、参加人数を増やしていく。

また、岩神ふれあいの森の桜は、桜再生会議の立ち上げから、樹木医による詳細調査が続いていることから、今後は調査に基づき、生育の向上に取り組む必要がある。



市町村名	大館市	評価対象年度	H29～R3年
歴史的風致	6 浅利氏ゆかりの独鈷の歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	II 歴史的建造物の保存・活用 III 歴史的風致維持向上と情報発信 IV 歴史と伝統を反映した人々の活動の継承		

① 歴史的風致の概要

比内地域の独鈷には、中世大館地方を治めた浅利氏の居城のあった十狐城跡のほか、大日神社(大日堂)、諏訪の松、諏訪八幡神社、お茶ノ水や独鈷囃子など浅利氏ゆかりの史跡や民俗芸能が残されている。

これら中世からの文化財は、かつての十狐城主浅利則頼公を敬愛する地域の人々や団体により、今も守り伝えられている。

② 維持向上の経緯と成果

16世紀に浅利則頼が再建した独鈷大日神社(大日堂)を舞台に執り行う例祭や、その例祭で奉納する独鈷囃子が現在まで地域の人々によって大事に受け継がれている。

歴史的建造物や歴史的資産の保全、伝統芸能の継承は、独鈷地区の青年で構成される独青团の活動により、100年以上にわたって現在も変わらず郷土の文化と風景を守り続けている。

近年では、地元の東館小学校でもふるさとキャリア教育の一環として独鈷囃子に取り組み、継承に努めている。

なお、その取り組みの成果を、例祭のほか小学校の行事で地域の人々に披露している。

こうした取り組みや活動について、関係者の協力を得て、例祭当日に参加する歴まち散歩を企画した。参加者は、歴史的資産のほか、大日神社に隣接する民舞伝承館も見学し、独鈷地区の歴史や文化の認識が向上した。



独鈷大日神社例祭  
 (歴まち散歩)H29.6.22  
 上段:湯立の儀  
 中段:独鈷囃子披露

③ 自己評価

少子高齢化が進む中、関係者や地域の人々が大事に守り育ててきた歴史的建造物や伝統行事を、次世代を担う子ども達が、その歴史や文化を認識し、受け継いでいる。

また、このような取り組みにより、浅利氏の縁でつながる山梨県中央市との交流事業が継続している。



公開研究会(H29.11.13)  
 (山梨県中央市との交流事業)

④ 今後の対応

浅利氏の縁でつながる山梨県中央市と、地元小学校と連携を図り、ふるさと教育の一環で、交流を継続していく必要がある。

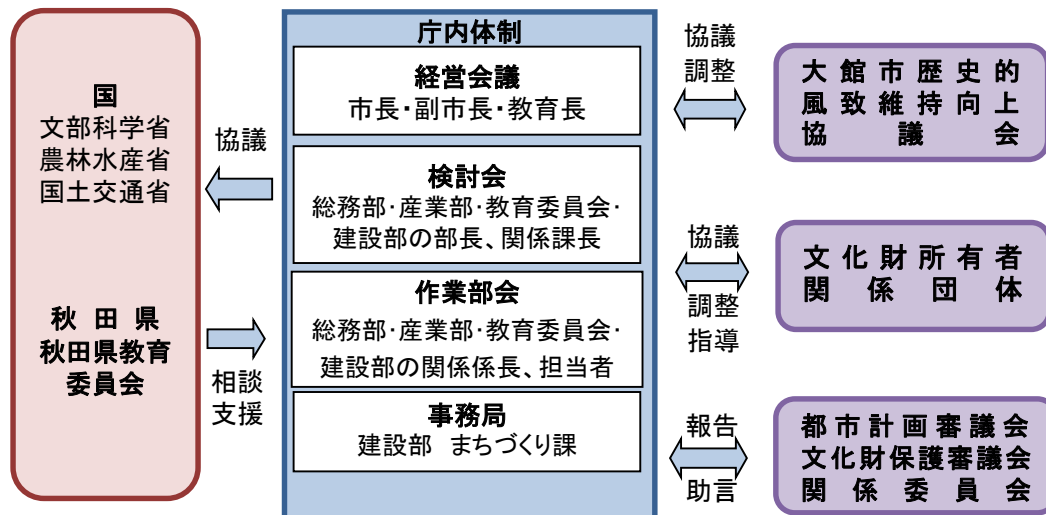
その中で、独鈷囃子の継承の活動や関係団体の取り組みについて、記録映像の作成や情報発信を行い、更なる歴史的風致の認識の向上を目指す。

市町村名	大館市	評価対象年度	H29～R3年
------	-----	--------	---------

① 庁内組織の体制・変化

計画の実施にあたり、建設部まちづくり課に事務局を置き、関係部署による作業部会・庁内検討委員会・経営会議を設け、取り組んでいる。

新庁舎建設、大館駅前再開発などその周辺環境が変化する中で、歴史的風致維持向上計画が基軸となり、整備方針を協議する際などには、下記の庁内体制で必要に応じて打合せを行い、横断的に取り組む形に変化した。



■計画の推進体制の図

② 庁内の意見・評価

・文化遺産を活用したまちづくり（八幡神社覆屋建替、ヘリテージマネージャーの育成、大館神明社例祭各講伝承曲DVD作成など）を支援する事業や、当課で文化財オンラインツアーを開催する際に、まちづくり部署と緊密に連携を図り取り組んだ。今後も情報共有を継続し歴史的風致の維持向上に関する施策を推進していく。

（教育委員会/文化財保護担当）

・大館城本丸跡である桂城公園との一体的な活用を目指して整備した新庁舎は、庁舎北側に親水広場としてウッドデッキや井水を利用した浅瀬を設置し、大館城につながる橋や堀を現代的に整備を行った。今後の駐車場整備などの外構工事では、桂城公園を歴史的建造物を巡るまち歩きの見点に位置付け、城址公園に隣接する庁舎としてふさわしい景観形成を目指す。

（総務課/新庁舎建設担当）

・大館駅前地区整備に着手してから、今年度で歴史的風致維持向上計画と同じく5年が経過する。この5年間で観光交流施設「秋田犬の里」をはじめ、芝生広場や多目的広場等の整備が完了した。「秋田犬の里」はオープン当初から多くの来館者が訪れ、賑わい再生に一定の効果が表れている。今後さらに、目標である地域資源・文化を活かしたまちづくりを確実なものにするため、計画年度内に大館合築駅舎を含めた事業完成を目指す。

（都市計画課/都市整備担当）

・事業計画には多くの部署が関わることから、計画実施の課題等について、常に情報共有していく必要がある。道路美装化にあたり、バリアフリーまちづくりと連携した取り組みとして、無電柱化の推進や歩道段差の解消、適切な除排雪の実施等、良好な道路空間の確保に努めるとともに、景観の向上を図っていく。

（土木課/道路整備担当）

・重点区域内に市の主要な観光施設である石田ローズガーデンや秋田犬会館などがあり、適宜情報共有を行いながら事業を進めている。歴史まちづくり事業の道路美装化などにより、桜櫓館から石田ローズガーデンへと続く大館城址であったエリア一体がまち歩きの見点として、さらに魅力あるエリアになると感じている。今後もさらなる魅力度アップに向けて横の連携を図りながら事業を推進する。

（観光課/観光振興担当）

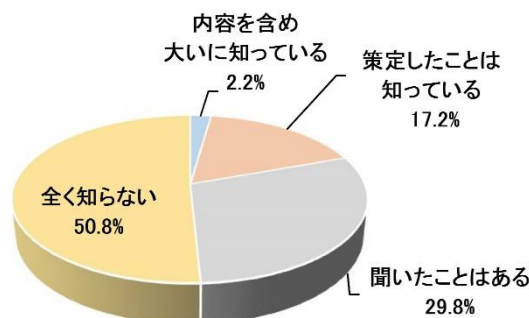
市町村名	大館市	評価対象年度	H29～R3年
------	-----	--------	---------

① 住民意見

歴史的風致維持向上計画の中間評価アンケートから  
 （実施期間 令和4年2月24日～3月14日 回答者数456人）

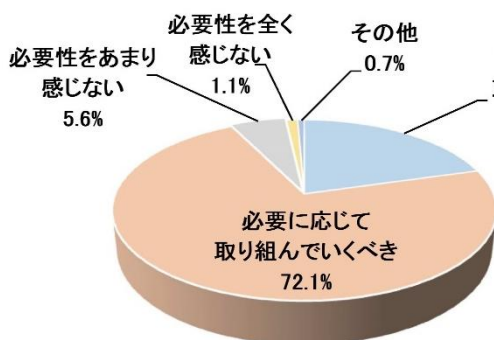
質問：平成29年3月に策定した歴史的風致維持向上計画のご存じですか？

⇒本計画を全く知らないという回答が約半数を占めていることから、計画や取り組みについて情報を発信していく必要がある。

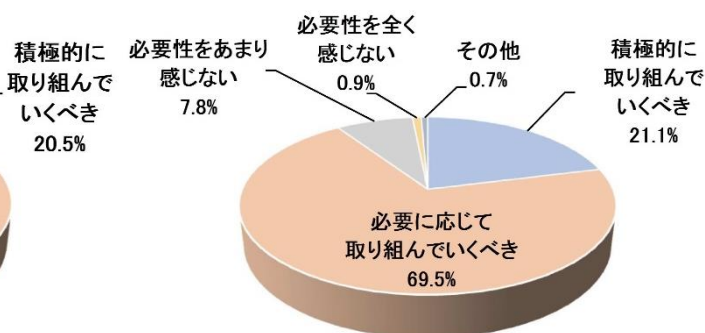


質問：歴史まちづくりのハード事業・ソフト事業の取り組みについて、どのようにお考えですか？

⇒ハード事業・ソフト事業ともに「積極的に取り組んでいくべき」と「必要に応じて取り組んでいくべき」の回答が9割以上を占めていることから、歴史まちづくりに関する取り組みへの理解と評価を得ていると推察する。



ハード事業の取り組みについて



ソフト事業の取り組みについて

② 協議会におけるコメント

（中間評価アンケートの結果について）

- ・歴史的風致維持向上計画を全く知らないが約半数であるが、解釈が難しいため、もう少し掘り下げて、地域別の二次データを取りまとめる必要がある。
- ・これからも住み続けたいと思う人の割合が高いまちは珍しい。これは誇らしいと思う。住み続けたい人と他の設問との分析に取り組んでほしい。

（歴史的風致維持向上計画の中間評価について）

- ・維持向上すべき6つの歴史的風致の評価区分について、立法趣旨としては、そのままでは無くなってしまふものに手を加えて維持し、さらに向上させると目的がありました。普通「維持」というと良くなっていないという印象を持たれてしまいますので、「手を加えているので維持されている」というニュアンスの文章にすべきである。
- ・文化財などに直接関わる一時的な受益者と市民では行政への評価に差が出る。波及効果の部分がコロナで止まっているが、表現の仕方で市民にも受益がある、またはこれから出てくるのだ、という表記があるとよい。
- ・大文字の送り火は、お盆の送り火であったが、開催日がお盆前になり意味合いがズレていると思う。沼窪神社は、町内会での参拝となり、神事が行われていない。また、神社に傷みがあるが、修繕が出来ていない。
- ・ハチ公の物語りや秋田犬というコンテンツで来訪者が増えているが、ハチ公をお参りする神社がないのは寂しい。境内整備を進めている神明社に設置してもよいと思っている。

市町村名	大館市	評価対象年度	H29～R3年
<p><b>① 全体の課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中間評価アンケート結果から、大館市歴史的風致維持向上計画（歴史まちづくり）について、認識度が低かったことから、発信手法を検討し、より一層認識の向上を目指す。</li> <li>・維持向上すべき6つの歴史的風致において、重点区域内で事業展開している歴史的風致と取り組みしていない歴史的風致との認識に大きな差が生じていることから、後期5か年では歴まち散歩を増やし、また取り組み企画を工夫する必要がある。</li> <li>・街なみ景観や歴史的建造物の保全のハード事業において、目に見える形になってきましたが、そのハードと一体となりソフト事業の取り組みも引き続き積み重ねていく必要がある。</li> <li>・具体化方策の実現に向け、庁内で横断的に取り組むとともに、関係団体と意見交換を重ねて重層的な取り組みを推進する必要がある。</li> <li>・コロナ禍で自粛していた歴まち散歩や歴史まちづくりシンポジウムの開催、また広域連携を推進し、ふる里おおだての更なる魅力の創出を目指す。</li> </ul>			
<p><b>② 今後の対応</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大館城本丸跡の桂城公園について、“歴史と未来が交差する水と緑の城址公園”の整備方針に基づき、市民が自信と誇りを持てる場所となるよう、時間をかけて整備を進めていく。</li> <li>・重点区域外にある歴史的風致について、認識の向上を目指すにあたり、どのような形で光を当て、魅力を高めていくべきかを改めて関係者と意見交換を重ねる。</li> <li>・人口減少や少子高齢化が進む中で、歴史的建造物の滅失や伝統行事、郷土芸能の担い手不足が懸念されることから、歴史まちづくりの取り組みにおいて、引き続き所有者や関係団体に寄り添い、課題解決に向け一緒に取り組んでいく。</li> <li>・歴史まちづくりで目指すべきところ（教育に根ざしたひとづくり） ふるさとキャリア教育を推進 ～まちに愛着と誇りを～</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="424 1444 715 1659">  <p>歴まち散歩（歩いて）</p> </div> <div data-bbox="849 1444 1142 1659">  <p>探求講座（触れて）</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="424 1711 715 1926">  <p>出前講座（知って）</p> </div> <div data-bbox="855 1711 1161 1926">  <p>ワークショップ（関わって）</p> </div> </div> <p>まちに何も無い⇒まちを歩いて⇒まちに触れて⇒まちを知って⇒まちに関わって⇒まち育て</p>			